

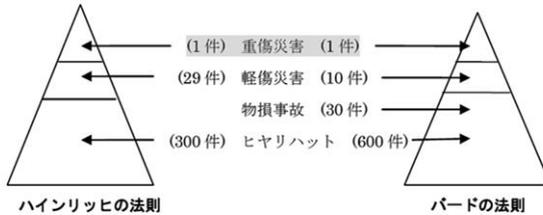
9-1 ハイน์リッヒの法則

ハイน์リッヒの法則

1件の死亡・重傷災害が発生したとすれば、それと同じ原因で29件の軽傷災害が、また同じ性質の無傷災害(ヒヤリハット事故)300件を伴う。

バードの法則

重傷災害1件に対し、軽傷10件、物損30件、ヒヤリハット600件が発生する確率にある



安全対策の今日的課題- 災害ゼロから危険ゼロへ

今日的には、安全対策の基本方向が、「ケガをしたか、しなかったか」(結果)を重視して再発防止対策に取り組む姿勢から、結果より発生パターンの問題性を重視して対策(労働災害につながる前に芽を摘み取る=先取り安全)に取り組む姿勢に変わりつつある。

職場に存在する危険性又は有害性(危険有害要因)の状況に着目し、当該リスクの低減化をめざした取組みである。

このように安全対策の基本方向(目標)が危険ゼロへと転換している背景には、ハイน์リッヒやバードの法則で指摘されている死傷災害を伴わないヒヤリハット事故が存在する以上(回り回って300件のヒヤリハットが1件の重大災害、29件の軽傷災害につながってしまう以上)、それをターゲットにした職場安全活動を展開しない限り、根本対策にならない、という問題があるからである